

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 5 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 5 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,055 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲3.3%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,696 円（伸び率▲3.4%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,582 億円（伸び率+0.4%）、薬剤料が 4,461 億円（伸び率▲4.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 800 億円（伸び率+5.5%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,199 円（伸び率▲5.4%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.79 種類（伸び率+0.2%）、23.8 日（伸び率+2.7%）、78 円（伸び率▲8.1%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,620 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲203 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 689 億円（伸び幅▲143 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+21 億円（総額 281 億円）であった。（→P.13）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,620 億円 (▲203 億円)	21 循環器官用薬 (689 億円)	11 中枢神経系用薬 (651 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (560 億円)
0 歳以上 5 歳未満	29.2 億円 (▲6.6 億円)	44 アレルギー用薬 (12.0 億円)	61 抗生物質製剤 (6.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.7 億円)
5 歳以上 15 歳未満	73.6 億円 (▲11.9 億円)	44 アレルギー用薬 (27.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (18.9 億円)	61 抗生物質製剤 (8.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,253 億円 (▲73 億円)	11 中枢神経系用薬 (279 億円)	21 循環器官用薬 (206 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (205 億円)
65 歳以上 75 歳未満	881 億円 (▲63 億円)	21 循環器官用薬 (199 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (165 億円)	11 中枢神経系用薬 (110 億円)
75 歳以上	1,382 億円 (▲48 億円)	21 循環器官用薬 (281 億円)	11 中枢神経系用薬 (243 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (185 億円)

- (4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,696 円（伸び率▲3.4%）で、最も高かったのは高知県（10,329 円（伸び率▲1.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,518 円（伸び率▲3.6%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲0.5%）、最も低かったのは福島県（伸び率▲6.0%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	74.2%	+5.3%
薬剤料ベース	17.9%	+1.7%
後発品調剤率	71.7%	+4.1%
（参考）数量ベース（旧指標）	51.3%	+5.4%

注)【後発医薬品の数量】/（【後発医薬品のある先発医薬品の数量】+【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.5%	+12.5% (5 歳以上 10 歳未満)	▲5.0% (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	17.9%	20.4% (0 歳以上 5 歳未満)	12.3% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	74.2%	77.4% (60 歳以上 65 歳未満)	65.9% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬）薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	709 億円 (+39 億円)	21 循環器官用薬 (225 億円)	23 消化器感薬 (105 億円)	23 中枢神経系用薬 (76 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.3 億円 (+1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (2.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	61 抗生物質製剤 (1.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	13.7 億円 (+1.3 億円)	44 アレルギー用薬 (7.6 億円)	61 抗生物質製剤 (2.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	237 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (63 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)	4 アレルギー用薬 (30 億円)
65 歳以上 75 歳未満	178 億円 (+10 億円)	21 循環器官用薬 (71 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (18 億円)
75 歳以上	273 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (90 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)	11 中枢神経系用薬 (31 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,149 円	1,491 円（北海道）	972 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.4%	+11.5%（徳島県）	+1.9%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	74.2%	84.5%（沖縄県）	66.6%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	17.9%	21.7%（鹿児島県）	15.3%（京都府）
後発医薬品調剤率	71.7%	80.1%（沖縄県）	66.0%（東京都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	51.3%	61.0%（沖縄県）	46.5%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 30 年 5 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。

〔お知らせ〕

- 平成 30 年 4 月号から下記の表を追加しました。これに伴い、表番号、ページ番号を変更しました。その他、形式的な変更を行いました。
 - ・薬剤料総額（薬効分類別）（全年齢）
 - ・処方箋 1 枚当たり薬剤料（薬効分類別）（全年齢）
 - ・後発医薬品割合（数量ベース、新指標）（年齢階級別）
 - ・後発医薬品薬剤料（薬効分類別）（全年齢）
 - ・後発医薬品割合（薬剤料ベース）（全年齢）
 - ・後発医薬品割合（数量ベース、新指標）（全年齢）
 - ・処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料（薬効分類別）（全年齢）